

会報  
峠  
とうげ

河井継之助記念館  
友の会会報  
第36号  
2024.10

「戦場」

〈編集・発行〉  
河井継之助記念館友の会  
新潟県長岡市長町1丁目甲1675-1  
〒940-0053  
Tel.0258-30-1525  
Fax.0258-30-1526

〈編集人〉  
荒木法子 恩田富太  
棚橋智仁 山田 明  
友の会事務局  
〈構成・印刷〉  
高速印刷株式会社

# 「継之助、決断時の心境に思いを馳せる」

慈眼寺前住職 船岡芳英



みなさんご存じの通り、小千谷談判の会場となった慈眼寺会見の間には、冬場を除き毎日のように河井継之助ファン、司馬遼太郎ファンがお出でになります。

その内の多くが「峠」をすでにお読みでしょうから、ここに來られる

までに岩村憎しの気持ちを抱いておられるのではないかと推察しております。私は決して岩村だけを弁護するつもりはありませんが、多少可哀そうに感じることもあります。

話は変わりますが、よく話題となるのが、談判に臨んだ継之助の真意

です。しかし、私にとって、その真意についても興味深いのはもちろんですが、談判決裂後、開戦を決意する時の心境についてはさらに興味を引かれます。長い間、長岡の街を焼いた張本人として、継之助をよく思わなかった人が多かったのは事実でしょうし、今でも継之助ほどの人物が、なぜ戦争を避けられなかったのかと疑問に思う人も大勢いらっしゃると思います。現代は自由な社会です、いろいろな人がいろいろな意見をもち、活発な議論をすることはとてもいいことだと思いますが、残念ながら、本当のところはその状況になった本人にしかわからないのではないかと感じています。

継之助ほどの極限状況の中ではないので、おがましいかもしれませんが、私も以前大勢の方々の身の安全を預かる立場での決断を求められたことがあります。平成十六年の中越大地震の時でした。詳しくお書きするとご迷惑にかかる方もあるのではないかと思いますので、漠然としたことで申し訳ありませんが、ご勘弁下さい。その時感じたことは、その決断をすることで非情だと批判されることはわかっていたとしても、

大勢の方の命を預かる者として、一番優先すべきは大勢の方の身の安全だということです。もし私がみんなに嫌われたくないとか多分だいたいぶなどといい加減な気持ちで判断して、最悪な結果となってしまったら、決して償う方法などないと思います。結果的には、最悪な状況は起こらなかったのですが、あの時の判断に後悔はありません。

そこで、極限状況で決断した継之助の心境にとっても心惹かれるのです。



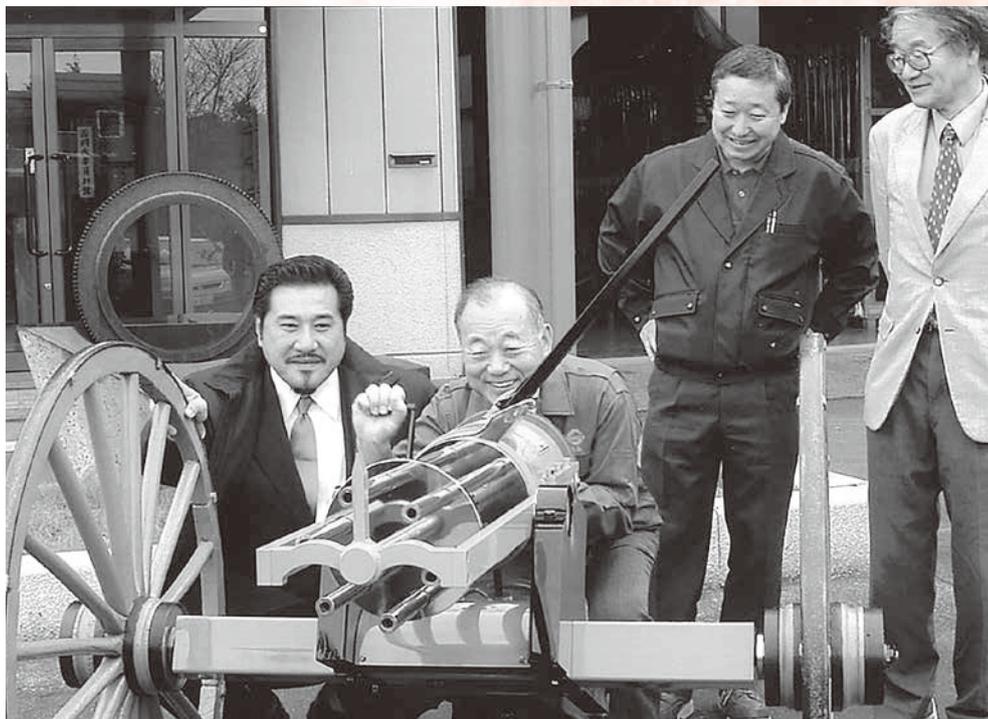
慈眼寺山門（住所：小千谷市平成 2-3-35）

船岡芳英（ふなおかほうえい）

昭和二十九年（一九五四）小千谷市生まれ  
平成二十年四月より、慈眼寺住職  
令和六年八月より、五智院住職  
趣味は体を動かすこと、旅行

# 追悼 内山弘先生

河井継之助記念館に入ると象徴的に展示しているガトリング砲。この製作に尽力された郷土史研究家の内山弘氏が令和6年3月に他界された（享年87歳）。本会の顧問を長年務めていただいた故人を偲び、ここに当会会長 星貴の追悼文を掲載する。



ガトリング砲の完成を祝う内山先生と星貴会長、廣井晃幹事、稲川明雄前館長

噫 内山弘先生

昨年の七月、先生と長岡赤十字病院の内視鏡待合で偶然並んでいた。慣れない環境で込み合う中、マスクに帽子姿の先生にこちらからは気付かなかった。先生から声を掛けられた。

「あら星さん」

「おお先生、俺これから胃カメラですよ」

「私は下からです」

結果については先生から特に問題はなかったと聞いていた。

去年の初秋から、先生の最後の大事な仕事となる『写真が語る 長岡市の100年』（いき出版）の監修、私は市街地のキャプション書きで御一緒する事となった。

昭和三十二年頃の写真「長岡駅前から大手通りを望む」で大黒の「長生橋焼」という看板が気になった私は大黒の高橋社長に尋ねていた。先生も同じ看板が気になった様で電話を頂いた「星さん長生橋焼きってご存じですか」即座に「今川焼みたいなものですよ」と知り得たばかりの情報を得意げに先生に知らせ、先生も同じ個所を拡大鏡でご覧に

なっていたんだなと思うと何とも嬉しくて溜まらなかった。そんな会話を繰り返して二月末に出版の日を迎え内山先生も製本された写真集をご覧になったと聞いていた。二月二十八日先生は三島億二郎物語の会議に招かれ助言をされたと聞いた。私が先生の訃報を知ったのが三月六日。三月三日に体調を崩され緊急入院。四日の未明に亡くなられたとの事である。奥様に「昨年の大腸検査で結果が良くなかったんですか」と伺ったが、「いいえあの時の結果は問題なしだったんですよ。私も驚いているんです」と落胆されている様子だった。

内山先生との思い出を語るとキリがないが深い交流は山本五十六記念館立ち上げの頃からだろうか。その後長岡戦災資料館の立ち上げ、河井継之助記念館の立ち上げ、北越戊辰伝承館の立ち上げ、昨年オーブンの第四北越ミュージアムの産業年表も我々が書き連ねたものを先生に最終チェックをお願いし、屋井先蔵の電池をお借りし撮影させていただいた。米百俵まつりでは屋井先蔵役で出演してもらっていた。共著としては『長岡歴史辞典』『長岡大花火 祈り』

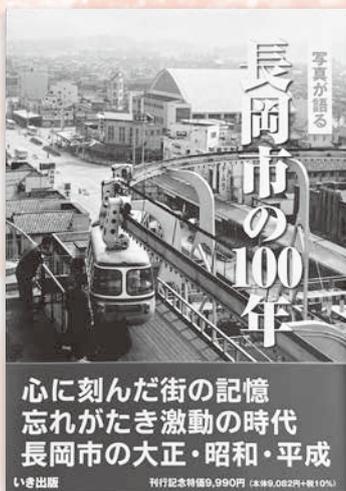
## 内山先生が 残した本たち



『戊辰戦争とガトリング砲』  
単著／長岡歯車資料館



『長岡歴史事典』  
共著／長岡市



『長岡市の100年』  
監修／いき出版



開館3周年記念講演会



ガトリング氏と記念撮影



米百俵まつりでの屋井先蔵役



北越戊辰戦争伝承館

『山本五十六の覚悟』などがある。長生橋の歴史、蒼柴神社の青銅の大灯籠、宝田石油など幾度となくお宅にお邪魔し多くの知識を学ばせていただいた。何としても幕末の銃器についてである。切っ掛けは先生がガトリング砲の本を記された際に私がアメリカで四十年程前に手に入れた本を提供した事からだ。北越戊辰伝承館の準備会議に二人で新組コミセンに招かれ当地に残されるエンフィールド銃について解説したのも懐かしい。また、内山先生は歯車の専門家であり工学博士であったので、仕組みを探り模型を実際に作る事に拘られた。四十年程前に指南車を作り人々を驚かせ当時の武者行列にも登場した。河井継之助記念館開館前に一緒にガトリング砲研究会を

立ち上げ、広井工機の廣井晃氏の設計で製作したガトリング砲に対して思い出は尽きない。ガトリング砲の車輪は内山先生が所蔵の大八車の車輪が使用された。

河井継之助記念館開館三周年にNCホールで内山先生と二人で「幕末の銃器とガトリング砲」の講演をさせて頂いたのは良い思い出となっている。今後「写真が語る 長岡市の100年」に携わり先生の遺作にお供出来た事を大切な思い出にしたい。

内山弘（うちやまひろし）

プロフィール  
昭和12年（1937）長岡市生まれ。長岡歯車資料館館長、長岡郷土史研究会前顧問。長岡ガトリング砲研究会として、河井継之助記念館所蔵のガトリング砲復元に協力した。著書に『戊辰戦争とガトリング砲』などがある。

特別展示

# 蒼龍窟×雨龍

あまりょう

河井継之助は何を見据えていたか

当館では、特別展示「蒼龍窟×雨龍」河井継之助は何を見据えていたか」を開催中である。今回は牧野忠精「雨龍」の展示と新たに河井継之助記念館に寄贈された「河井継之助の手記」を初公開している。

「雨龍」は令和六年の干支「辰」と「蒼龍窟」の号にちなんで展示する。牧野忠精は長岡藩主として初めて江戸幕府の老中となり、幕政の中核を担う。「雨龍」の絵が得意で、將軍家斉にも献上したほか、長岡に茶道宗偏流を広めた。教育政策では藩校崇徳館を開校し、のちに藩政を担う河井継之助はじめ多くの人材を輩出した。加えて蒼柴神社を悠久山に建立するなど忠精の実績は以後の長岡藩政に多大な影響を与えている。十月十六日からは当館所蔵の雨龍を展示する。

『歐陽文忠公全集』や『呻吟語』を学び、江戸に遊学して、斎藤拙堂・古賀茶溪・佐久間象山に学ぶ。さらに藩政改革に成功した山田方谷から実学を学び、長崎など西国を遊歴したことが知られている。

このたび展示する「河井継之助の手記」は、公的な文書や書簡ではない。いわばメモのようなものである。継之助の署名はないが、甥の牧野環が、叔父が書いたもの間違いなことを保証している。

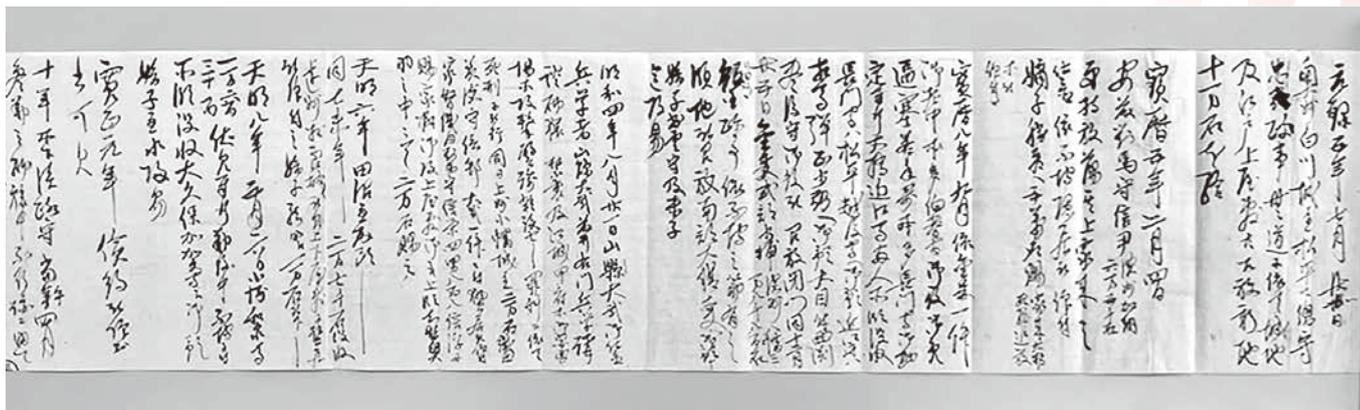
この手記は、藩政改革に失敗した事例が書かれている。継之助はこれらの藩政改革の事例から失敗の要因を探り、長岡藩の藩政改革の具体策につなげようとしている心中がうかがえる。書かれているのは元禄五年（一六九二）から寛政十年（一七九八）までの八事例。宝暦八年（一七五八）九月で始まる箇所は美濃郡上藩で年貢の引き上げに農民が抵抗した「郡上一揆」に関し藩主の金森頼錦が改易の処分を受けたことが書かれてい



雨龍（当館所蔵）

る。手記は自分自身のメモであり手紙と違い墨の濃淡が均一ではない。「改易」などは特に墨が濃く、継之助の気持ち表れている。ほかに「白河騒動」「安藤騒動」「明和事件」「田沼意次」の老中免職所領城没収隠居蟄居、「伏見騒動」に関することなどが書かれている。

皆様からご来館頂き継之助の志の実現に向けた思いを感じ取り、人間像を深める機会になることを願っている。



河井継之助の手記（当館所蔵）

# 館長が行く

## 横浜から地球の景色を窺う継之助

「明日は長岡駅六時二〇分集合にしましよ」ガイドボランティアの山田さんからのメッセージが届く。六月二十六日長岡発六時三十四分とき三〇〇号はホームを滑り出した。

継之助は横浜から地球の景色を窺っていた。改めてその横浜に身を置いてどのように世界の動向を察したのか、感じたかった。主な目的は横浜開港資料館観覧、そして、ファブルプラント商会の現在地を探し当てる。さらに、久里浜へ足を延ばすプランであった。

横浜開港資料館では、開港当時の写真や地図から、外国人居留地が形成され、英仏軍が駐屯し、軍艦も港に停泊していたことが分かった。薩英戦争や下関戦争では横浜から軍艦が派遣されている。まさに横浜は、長崎と同様に世界の動向を窺う絶好の場所であった。

次にファブルプラント商会のあった一七五番を探す。中華街の辺りらしいとの情報から探索を開始した。電柱の番地表示が頼りだ。六〇分歩いても見つからない。そこで山下町交番で尋ねた。警察官が「一七四番地はあるが、今は駐車場ですよ」と交番の地図で場所を特定した。「前の道を進むと中華街の善隣門がある。



横浜開港資料館にて

そこを右に曲がると加賀町署がある。その先を左に曲がると目の前です」と教えてくれた。実際訪れるとそこはNTTル・パルク駐車場だった。だが番地が判明しない。NTTコミュニケーションズ横浜山下ビル前の開港道へ廻ると電柱に「山下町一七四」、公衆電話も一七四の表示があった。遂に確認した。現在のこの辺りが当時の地図の一七五番館と重なる。横浜公園と目と鼻の先である。

ジェームズ・ファブル・プラントは、文久三年（一八六三）、スイス日本条約締結の為に使節団として



開港道で山下町174標示発見

来日した。当時二十二歳であった。修好通商条約は元治元年（一八六四）無事締結されたが、その後五十二番で時計宝石店を開業した。武器・諸機械の輸入も兼ねた。慶応二年（一八六六）の横浜大火で店を焼失後、慶応三年に一七五番に移っている。継之助は、ファブルプラントと親交を結び、食客として住み込む。夜中に拍子木を叩き、商館内外を廻ることもあった。武器も含め海外の様々な情報を得ていた。当時継之助はフランスの事情を研究し、特に兵制、兵器については最も熱心に調査研究をしていた。そして、同年九月に継之助はファブルプラントから歩兵操練書や施條銃論等を購入している。慶応四年二月長岡藩が備え付けた最新兵器ガトリング砲はファブルプラントから購入したものである。最後は久里浜へ。久里浜駅到着は既に十五時。歩いてペリー公園へ向かう。伊藤博文揮毫の上陸記念碑を

見て、ペリー記念館を閉館まで観覧した。館長さんから浦賀は狭くペリーの船は入港できず、久里浜に変更したこと、江戸湾を測量させ次回永六年（一八五三）ペリー来航を見た記録は残っていない。しかし、老中職を務める一〇代藩主牧野忠雅に提出した建言書が認められ、評定方随役に抜擢される。

継之助は、ペリー来航を契機に運命がかわる。さらに横浜での見聞を生かして西洋文化と世界の動きを知って知見を広め、長岡藩の藩政改革を進めた。現地を訪れ、改めて継之助の息吹を感じることができた。長岡到着は二〇時三十六分だった。（参考内山弘『戊辰戦争とガトリング砲』）



ペリー記念館



ファブルプラントから購入した書籍代金受領書（『河井継之助傳』より）

# 友多彩

友の会竹村会員から『一忍可以支百勇一静可以制百動』について独自の解釈が寄せられたのでここに紹介します。中国北宋の文人蘇洵の『蘇老泉文集』巻二権書の内、心術という項目の中に同じ文言が確認できます。権書は兵法書であり、心術は兵を率いる将官としての心構えなどが記されています。



## 河井継之助の座右銘を読み解く

その卓越した政治姿勢を見る

友の会第一期会員 竹村 保

一忍をもって百勇を支うべく、  
一静をもって百動を制すべし

これは、河井継之助が座右として傍らに置き、自らの戒めにしたとされるものである。これまで、河井に関するものをはじめ、いろいろな場面に引用されては来たものの、この意味を解説したものに、ほとんど出会ったことがなかった。そこで一考察として、これが解釈を試みようと思つたのである。まず前段の七文字について考えて見ることにした。忍とは耐え忍ぶことであるが、辛抱、我慢すると解釈し、百勇は言葉そのものの勇気とは捉えず、数多くの優れた意見と推量した。次に支うについてであるが、言葉通り支えたと理

また上司は、そうした民意を反映させた施策を実現させる中で実績を積み重ね、民の信頼を得てゆくという様に、お互いに支え合う関係でなければならぬのである」

次に後段の七文字について解釈を試みる。まず、一静についてであるが、沈着冷静な心を指しているものとした。百動とは何かを推量するに、前段との関連を考慮して前段の優れた意見に対する逆に悪いもの、すなわち、取るに足らない意見、役に立たない行為、行動と解釈した。制すとは抑え込むことであるが、これではいかにも高圧的に過ぎるので、少し柔らかな解釈をするとして、問題としない、取り上げないという様に捉えた。このような推量をもとに次の様に解釈を行ったものである。

「一静をもって百動を制すべし」

解釈

「様々な意見や行為行動が生じた

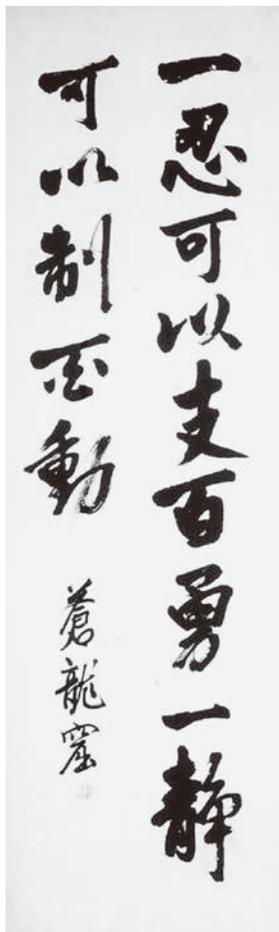
時に心すべきは、常に沈着冷静な心をもって、その中にある要、不要を見極め、取捨選択する強い信念と眼力を持たねばならない。それによって、不要なものを取り除く中で、やがてそれが自然に淘汰されてゆくよう心掛けねばならないのである」

河井継之助が政治信条としたのは「経世済民」であった。長崎を旅した時に接して共感した「民は国の本、吏は民の雇」という思想も座右の心あつてのものであり、山本五十六がこれを自身の座右としたのも上官の立場から範とすべきものを感じたからに相違ない。政治家としての河井継之助の人間像を眺める時、数少ない遺墨の中でもその政治運営の基本を、的確な用語で現わしている点で秀逸のものであり、これほどのものは他にないと云って過言ではないのである。

「一忍をもって百勇を支うべく」

解釈

「物事を決め、進め方を定める時、上司が先に結論を出してしまつては、多くの民の優れた意見を閉じ込めてしまうから、辛抱我慢してそれらの意見をしっかりと受け止め、聞く耳を待たねばならない。



## 第十六回 交流研修旅行

六月一日、第十六回友の会交流研修旅行「北越戊辰戦争の勃発の地を訪ねて」が開催されました。

前日までの雨模様が嘘のように当日は朝から暖かな日差しの中、小千谷と長岡の戊辰戦争の史跡巡りに、二十六名の皆様にご参加いただきました。

最初は、小千谷市片貝・鴻巣・山屋の戦いで戦死した会津藩士の墓や、戦いの最前線となった石動神社へ。次に、会津藩兵らと新政府軍が激突した雪峠へ。その後河井継之助が新政府軍との小千谷会談に臨んだ後、昼食をとったと伝えられる老舗割烹「東忠」にて、東忠御膳に舌鼓を打ち、継之助が休息した部屋も見学させていただきました。

昼食後は、映画「峠 最後のサムライ」のロケの行われた「西脇邸」の見学と木漏れ日の庭にて休憩。

その後、激戦の地、朝日山の麓の浦柄神社へ。朝日山殉難者墓碑の説明を受け、最後に河井継之助・開戦決意の地の前島神社へ。

目的地までの車中や現地では、友の会会員でガイドの山田明さんから詳しく解説をしていただきました。ありがとうございました。（酒井）



雪峠激闘の地記念碑にて



開戦決意の地にて(前島神社境内)



浦柄神社の戊辰戦跡記念碑前にて

### 小学生向けの夏休み企画 学びひろく・かたばみ講座

八月九日、小学生向けの夏休み企画「河井継之助記念館学びひろく・かたばみ講座 クイズラリー」としおり作りを開催し、小学生二十二名・保護者十二名が参加しました。

館長による解説や展示室内でのクイズラリーで河井継之助について学習し、また継之助にちなんだ文字やイラストを自由に選んでしおりを作りました。記念館初の試みとなる子ども向けの企画でしたが、多くの方に楽しい時間を過ごしていただきました。（伊藤）



### 遠方からの客人

まればと  
インタビュー ③1

● 来館のきっかけは

● インタビュー



2024年1月31日

● 来館のきっかけは  
小説「峠」を読み、河井継之助が好きになりました。調べると長岡に河井継之助記念館があったので、学校が休みであるこの時期を利用して訪れました。明日は小千谷へ、慈眼寺などを見学しに行きます。

#### ● 河井継之助について

戊辰戦争で一番死んではいけなかった人物だと思います。明治でも活躍している姿を見てみたかったです。他の志士と異なり「立場絶対論」を重視し、脱藩せず最後まで長岡藩士として貫いた姿勢に感動しました。

#### ● 河井継之助記念館について

X(旧Twitter)の記念館アカウントがあると情報にアクセスしやすく、広く周知できると思います。展示品等を紹介したらどうでしょうか。

## 記念館近況報告

▼今年、金土開催された長岡まつり大花火大会八月二日・三日の両日、大勢のお客様に来館いただきました。三日の来館者は三〇〇人を超え、ボランティアガイドさん、中田館長にフル回転で解説していただきました。

▼河井継之助終焉の地只見町にて、命日八月十六日に墓前祭がしめやかに執り行われました。友の会星会長はじめ十二名で参列させていただきました。

▼九月九日、会津若松市本光寺にて長岡藩士殉節慰霊祭が厳かに営まれました。友の会からは星会長、中田館長が参加しました。

▼友の会のホームページにて、会報『峠』を創刊号から最新号まで公開しました。お時間があるときにゆっくりご覧ください。

▼友の会会員に対し、当館入館料に団体料金を適用します。受付にてお申し出ください。



只見塩沢墓前祭

## 河井継之助記念館 友の会について

会員の交流や情報交換を通して継之助について学び親しみ、記念館を応援する会です。

●**会員数**／正会員 493名 協賛 43名 小・中学生3名 顧問 2名  
合計 541名

●**特典**／①入会時に徽章贈呈 ②友の会会報『峠』配布  
③交流研修旅行の案内・参加 ④催事案内・参加

●**入会手続き**／(入会金千円が必要となります)

- ①申込書に入会金と会費を添えて、事務局へ持参。
- ②申込書を事務局へ送り(郵送、FAX)、入会金と会費は銀行振込または郵便振込で納入。(手数料は本人負担となります)

会員募集中

●**会費**／※会計年度は3月31日まで

- ・入会金／千円(新規入会時のみ)
- ・年会費／①正会員／(ア)小中学生:500円 (イ)高校生以上:2千円  
②協賛会員／一口5千円(法人の他、個人でも可)

●**口座について**

- ・加入者名／河井継之助記念館友の会
- ・口座番号／郵便局 00560-9-96432
- 長岡信用金庫本店営業部 普1032829
- 第四北越銀行長岡本店営業部 普1764663
- 大光銀行本店営業部 普3011256

※郵便局の場合は払込用紙が事務局にありますのでご利用ください。

●**友の会事務局**／河井継之助記念館

友の会ホームページアドレス

<https://tomonokai.tsuginosuke.net/>



## 総会・講演会報告

四月二十日、令和六年度友の会総会・講演会が昨年七月にオープンした米百俵プレイスミライエ長岡で開催されました。会には市内外から百人近い会員の出席があり、盛況に終えることができました。

講演会は、講師に井辺吉伸氏をお迎えしました。井辺氏は、株式会社第四北越銀行総合企画部上席調査役、第四北越ミュージアム担

当でいらつしゃいます。

演題は『不撓不屈のひとつ・三島億二郎―「長岡魂」の原点と戦後復興―』です。河井継之助との関係を含めながら、わかりやすい説明をしていただきました。

今回は講演会の後、同施設内の「第四北越ミュージアム」の見学を、井辺さんの解説でいただきました。こちらの解説も講演同様わかりやすくユーモアに溢れ、参加者一同和やかに見学することができました。

(今井)

## 編集後記

私は記念館でガイドをしています。ガイドをしていると三つの喜びが得られます。学ぶ喜び。伝える喜び。感謝される喜びです。友の会の皆様、良かったらガイドをして見ませんか。これまでの学ばずから、伝える喜び、感謝される喜びを感じてみませんか。お客様もガイドも共に継之助ファンです。その都度心溢れる交流と感動が生まれます。失礼ながら、この紙面を借りて呼びかけさせていただきます。

(山田明)

## 新入会員ご紹介

(令和6年2月16日から8月15日まで)

竿田 元	東京都世田谷区	恩田 幸子	新潟県長岡市
白鳥 大樹	新潟県長岡市	安澤 美恵子	新潟県新潟市
佐藤 嘉晃	埼玉県和光市	安澤 貴志	新潟県新潟市
野村 徹	新潟県長岡市	鈴木 睦雄	神奈川県横浜市
鈴木 隆道	新潟県長岡市	盛田 清人	大阪府寝屋川市
伊藤 大貴	埼玉県越谷市	渡辺 マサ子	新潟県長岡市
木山 喜明	新潟県長岡市	廣川 豊	東京都練馬区
加藤 佳津雄	東京都国立市	松井 正継	千葉県成田市
阿部 靖志	宮城県仙台市	飯島 敬司	東京都練馬区
渡辺 勇蔵	新潟県長岡市	長澤 法長	新潟県長岡市
矢代 博行	新潟県長岡市	小林 健次	静岡県裾野市

以上22名(敬称略)